



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

ISS actcoin project : きっかけの提供

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学附属国際中等教育学校 公開日: 2024-04-25 キーワード (Ja): ETYP:教育実践, STYP: 中等教育学校 キーワード (En): 作成者: 藤木, 正史 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学附属中等教育学校
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000393

ISS actcoin project

—きっかけの提供—

ISS actcoin project

—Providing the impetus—

国際教養委員長/SA コーディネーター 藤木 正史

1章 SA 活動の現状

1節 ISS の SA 活動

東京学芸大学附属国際中等教育学校（以下、ISS（アイエスエス））では、グローバル社会に活用できる資質・能力を育成することを目的に独自の学習領域である「国際教養」を設定している。国際教養の重要な構成要素の一つがSA活動であり、ボランティアなどを含む社会貢献活動全般をソーシャルアクション（SA）と呼び、世の中に前向きなインパクトを与える活動すべてを指している（図1）。Key Levelは、知る・学ぶことから始まり、一番身近なコミュニティである自分たちが通う学校のニーズへの貢献、また寄付や様々な非営利組織や企業、自治体などが主催する活動への参加などを含む。国際教養委員会では外部からのボランティアオファーを取りまとめ、生徒に提供するなどSA活動のきっかけを提供している。

これまでの、自治体から依頼による地域のイベントでのスタッフボランティアなどに数多くの生徒が参加をしてきた。Challenge Levelはそうした経験をきっかけに、積極的に活動をしてみたいと考えた生徒に向けた指標として示している。二つのLevelに優劣はなく、ステップだと考えている。

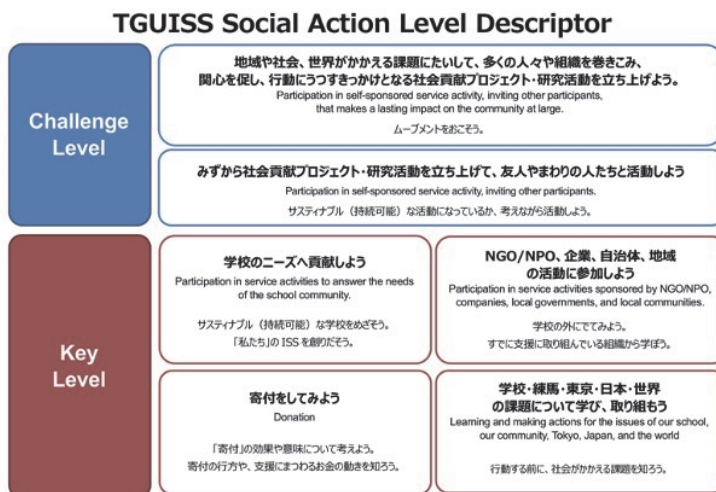


図1 SA 活動のディスクリプター

生徒が参加をしてきた。Challenge Levelはそうした経験をきっかけに、積極的に活動をしてみたいと考えた生徒に向けた指標として示している。二つのLevelに優劣はなく、ステップだと考えている。

2節 近年のSA 活動

ISSのSA活動も、コロナ禍で大きな影響を受けた。それまで、月1回程度の頻度で校内で募集をかけていたイベントボランティアなどに関しては、多くのイベントが自粛となり、その機会そのものが減少した。なお、コロナ禍が長引く中で、イベントそのものが終了してしまったり、実施の形態を変えていった。生徒に活動の機会を提供しようにも、生徒を校外の活動に参加させることに慎重にならざるを得ない状況となった。そんな中でも、生徒は個々で様々な活動を行っていたことは、年度末に実施するSA活動に関するアンケートで把握していたが、生徒たちとつくりあげて

きたISS全体でSA活動に参加することが当たり前という雰囲気はだんだんと薄れていったように感じている。

そうした状況を打破するために、2020年12月から2021年2月にかけて「日本でいちばんソーシャルグッドがうまれる学校」というクラウドファンディングキャンペーンを実施、支援総額は¥1,124,000となった。支援金は、顕著なSA活動を行った生徒を顕彰する制度の実施、社会貢献活動にかかわる専門的な授業の開発、NPOと開発した国際理解のためのワークショップなどに活用された。そして、2022年に行動制限が撤廃されたことでもう一度当たり前にSA活動が行われている環境を取り戻すため、生徒とともに新たな取り組みを行うこととなった。それがISS actcoin projectである。

2章 ISS actcoin project

1節 projectの概要

アクトコイン(actcoin)はソーシャルアクションカンパニー株式会社が提供するサービスで、様々なソーシャルアクションへ参加、実践したことを独自のコインで「可視化」・「価値化」するものとなっている。アプリもしくはWeb版で登録・ログインをすると、主催者が公開し募集をしているイベントに参加し、活動参加時間等に応じてコインを貯めることができ、そのコインが手元のアプリで確認できるようになっている。イベントは、リアルだけではなくオンライン開催のものもあり、それぞれSDGsのゴールとの関連が示されている。

この仕組みを活用して生徒の活動のモチベーションの向上、参加のきっかけを提供するために、ISSで行われるSA活動を一覧できる特設サイトを作成するとともに、掲載された活動に参加することでアクトコインを獲得できる仕組みを設定した。プロジェクトは生徒ともに開発することとし、創設メンバーである6名(現高校3年生)は、コロナ禍前のISSのSA活動を知っている世代であり、コロナ禍の間もボランティア部や有志団体に活動をしていた生徒であった。創設メンバーのプロジェクトへの想いはWebサイトに掲載された「1日のボランティアから沢山のことを学べるだけでなく、貴重な体験や経験ができます。これらはどれも、学校の授業では知ることができず、授業だけではわからない社会問題の深刻さを身をもって感じることができます。私たちは、様々なSAを行い、沢山の困難や悩みを抱えたことがあります、SAを行ったことに後悔したことはありません。だからこそ、少しでも多くの中高生にSAを行ってみて欲しいです。怖くて一歩踏み出せない人は、まずは小さいアクションから始めてみて下さい!」というメッセージに集約されている。



写真1 特設サイト

Event イベントに参加する

ISSでおこなわれるボランティアや生徒が主催するイベントにぜひご参加ください!



写真2 イベント掲載の様子

なお、特設サイトの開発費は、クラウドファンディング「日本でいちばんソーシャルグッドがうまれる学校」の支援金を活用した。

2節 Chiritumo (チリツモ)

創設メンバーは、集めたコインの新たな価値づけについても提案を行った。SA活動で獲得されたアクトコインの総コイン数がタームごとの目標に到達すると、非営利組織への寄付になる、という新たな社会的価値の創出をはかるもので、学校が一丸となって取り組める機会づくりであった。この取り組みは、寄付キャンペーン「Chiritumo (チリツモ)」として実装された。ひとりひとりの小さなアクションも、多くの人が少しずつでも持ち寄れば、社会を一步進める大きな力となる、というものである。創設メンバーは、プロジェクトの浸透とSA活動の促進を図ることを目的に2023年6月にSAウィークを企画し、主催企画だけでなく、校内有志団体やボランティア部に企画参加を呼びかけた。この時の活動は、モノ寄付、講演会、イベントボランティアなど様々な形で実施され、またその目的も途上国の支援、インクルーシブ社会の実現、パラスポーツの振興、地域おこし、子どもの貧困など、様々な角度から示された。一連の活動への参加者は、のべ120名を越え、2023年上半期で、獲得された総コイン数は30万コインを超えることとなった。総額3万円(10コイン=1円)の第1回寄付キャンペーン「Chiritumo (チリツモ)」が10月に実施された。寄付先団体は、アクトコインの登録団体である非営利組織から、NPO法人Deep People、NPO法人SET、認定NPO法人PIECESと決定し、各団体はそれぞれ1分半ほどの活動紹介動画を用意、特設サイトに公開し、およそ1週間の生徒投票期間を設けて、投票数に応じて1万5千円、1万円、5千円が寄付されることとなった。投票総数は、112票(56人・一人2票)であった。

表1 SAウィーク2023の諸活動

Social Action Week 2023		
生徒企画	内容	付与コイン数
生徒有志団体①	ペットボトルキャップ・保冷剤回収	500 (期間中1回付与)
生徒有志団体②	子ども食堂ボランティアが活動説明会	200 (期間中1回付与)
ボランティア部	文房具回収	500 (期間中1回付与)
ボランティア部	カードゲームfromMe体験会	2500
運営メンバー	卒業生によるSA座談会	1000
学校企画	内容	付与コイン数
国際教養委員会	チャリボン (古本寄付)	500 (期間中1回付与)
国際教養委員会	特定非営利活動法人日本補助犬センターによる講演会	1500

期間 2023年6月12日(月)～6月19日(月)

その他の2023年度上半期のコイン付与企画		
日程	内容	付与コイン数
2023/7/22	LIGA.1 ブライインドサッカー大会ボランティア	8000
2020/7/28・29	地元商店街の夏祭りボランティア	5000 (各日)

Campaign 寄付キャンペーン”Chiritumo !”

ひとりひとりの小さなアクションも、多くの人たちがもたらせば、社会を一步前に進める大きな力となります。ISSが主催するソーシャルアクションに参加し、皆さんが獲得したコインの総和が目標に到達すると、課題の最前線で活動するソーシャルセクターへの寄付となります。

ISS生限定！第1回投票キャンペーン
みんなで寄付先を決めよう！

ISS actcoin projectがスタートし、2023年度上半期の獲得コイン数が30万を突破しました。それを記念して、総額3万円(10コイン=1円)の寄付キャンペーンを実施します。

第1回寄付キャンペーン”Chiritumo”では、全校生徒での投票を通して、3つの団体に寄付を届けたいと思います。各団体の活動紹介動画を視聴し、「この取り組みを応援したい！」と感じた団体に投票しましょう。(投票数が多い順に、それぞれ15,000円、10,000円、5,000円の寄付が届きます)

投票の流れ



各団体の紹介動画を視聴



10/2～10/10 寄付先団体を投票



投票数に応じて寄付金が届く

エントリー団体



actcoin Deep P...



NPO法人SET



ISS actcoin pr...

写真3 寄付キャンペーンの実施の様子

3章 おわりに

社会課題に気づくきっかけ、活動参加のきっかけを提供するだけでは、一過性のものになってしまう。そこで寄付先となった3団体と直接話すことができるランチミーティングを設定した。寄付先団体からの活動紹介のほか、団体と投票をした生徒とのダイアログの場を設定し、団体側からはなぜ自分たちの活動を支持してもらったのか中高生の率直な意見を聞く機会となり、中高生側からは活動に関するさらなる質問が交わされる空間となった。



写真4 非営利組織とのランチミーティング

ISS actcoin project の開発と運営はひとまずその目的は果たしていると考えている。しかし、いまだに学校内での一部の活動である、ともいえる。任意ではあるが、アクトコインの登録を多くの生徒が行い、日常で活用する仕組みをさらに企画していく必要がある。そのためには、SA ウィークのようなキャンペーンをくりかえし、アクトコインの活用が当たり前の状況をつくること、そしてアクトコインの活用＝アクトコインを貯めることが、社会の課題解決へのインパクトにつながる、という実感を得てもらう必要がある。

「学校説明会で SA 活動を知って、ISS を選びました。」という生徒もいる。そうした生徒の期待に応えるためにも、コロナ禍前以上のムーブメントを生徒ともに創りあげていきたい。現在、創設メンバーの意思を継ぐ、第2期メンバーの募集を行っている。次なる目標の一つは、この取り組みを ISS 生だけでなく、保護者や他校の生徒、そして一般にも広めていき、より多くの人を ISS が発信する SA のムーブメントに参加できる体制を整えていくことである。

ISS actcoin project

— Providing the impetus —

Abstract

In recent years, the Corona disaster has reduced the opportunities for ISS students to participate in social action programs. Therefore, we launched the ISS actcoin Project and created a special web page that lists all the social action programs that our school can offer to students. We hoped that the actcoin would motivate the students, as it is a system that allows them to visualize their social contribution activities.

Despite the challenges, we believe that we have achieved a certain level of effectiveness. In the future, it will be necessary to disseminate this project to the outside world and verify its effectiveness.